

2024年度学生とともにのぼす京都プロジェクト

「ビジターセンター×京大×未来知プロジェクト」

石原正恵・太田果南（京都大学）

目的

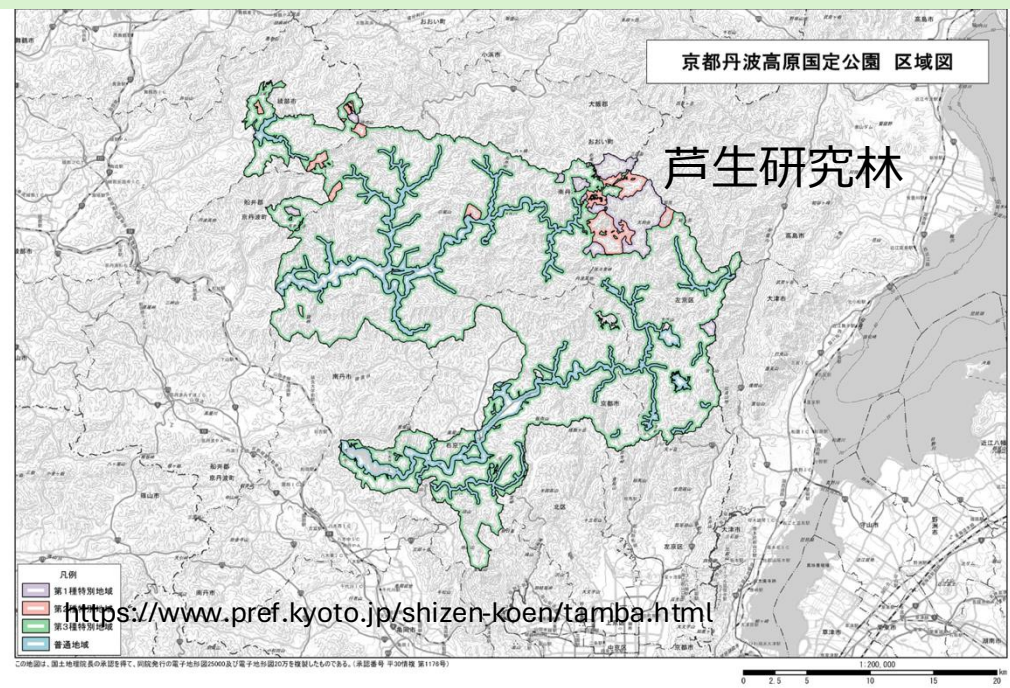
京都丹波高原国定公園は京都府の北東部に位置する。

ビジターセンターは、国定公園の優れた風景地の保護とその利用の増進を図り、地域の発展に寄与するための業務を実施している。

芦生研究林は国定公園の中でも特に自然を保護するエリアとなっている。また「森里海連環学」を提唱し、森と人とのつながりの再構築による豊かな森と持続的な人間社会の創出を目指している。

京大フィールド科学教育研究センターは、2022年に京都丹波高原国定公園ビジターセンター運営協議会と包括連携協定を締結し、共同して事業を展開してきた。

京都丹波高原国定公園において、
1. 自然環境や文化に関するデータ収集
2. 自然と人をつなぐ情報発信を共同で実施
国定公園の利活用を促進する。



国定公園内の
野生動物に関するデータ収集

野生動物の日周性に
レクリエーション等の人間活動が与える直接的影響

・世界的にレクリエーション活動が増加
・その結果、野生動物の活動の日周性が変化した事例(Gaynor et al, 2018 ; Inoue 2016)

タヌキ
本来、夜行性。昼間も活動する。（Okabe and Agetsuma, 2007）

ツキノワグマ
本来、昼行性。薄明薄暮で活発（増田ほか, 2018）

イノシシ
本来、昼行性（中谷, 2001）

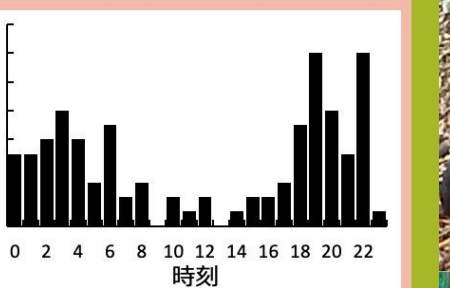
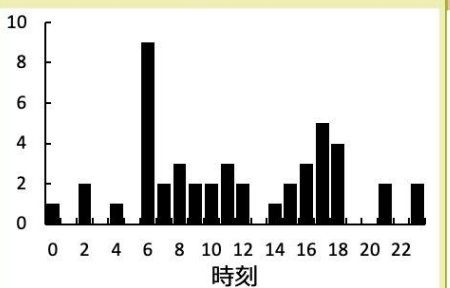
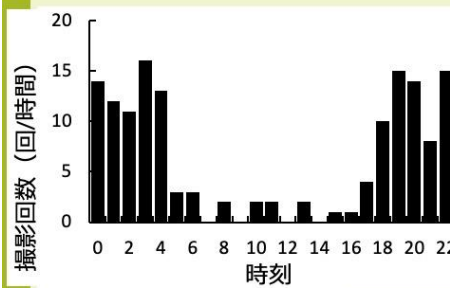


図7. 哺乳類3種の日周性

芦生でも夜行性

芦生では昼行性を維持
貴重な生息環境

芦生では夜行性
人間活動の影響を強く受け
ると考えられる

種によってはレクリエーション等の活動によって
日周性が変化



太田果南（2025）原生的な森林における中・大型哺乳類の活動と人為影響-芦生研究林の事例-京都大学修士論文

京大実習「森里海連環学III」 2025年2月18～20日実施

京都大学農学部、法学部、総合人間学部、工学部、理学部の1～4年生9名



芦生研究林内で
植物・動物・菌類を学ぶ

原生的な森と温暖化影響
生物多様性



芦生山村活性化協議会の
メンバーから、栃の実を用いた
伝統文化の継承、地域づくり、
栃の森の保全について講義を受け、
栃へし（栃の皮むき）を体験



地域の課題を美山観光まちづくり協会の
スタッフから学ぶ



美山町内の
かやぶきの里を見学

人と自然の調和のある暮らしを学ぶ



美山町内の限界集落を訪れ、
歴史、文化、現在の課題を学ぶ



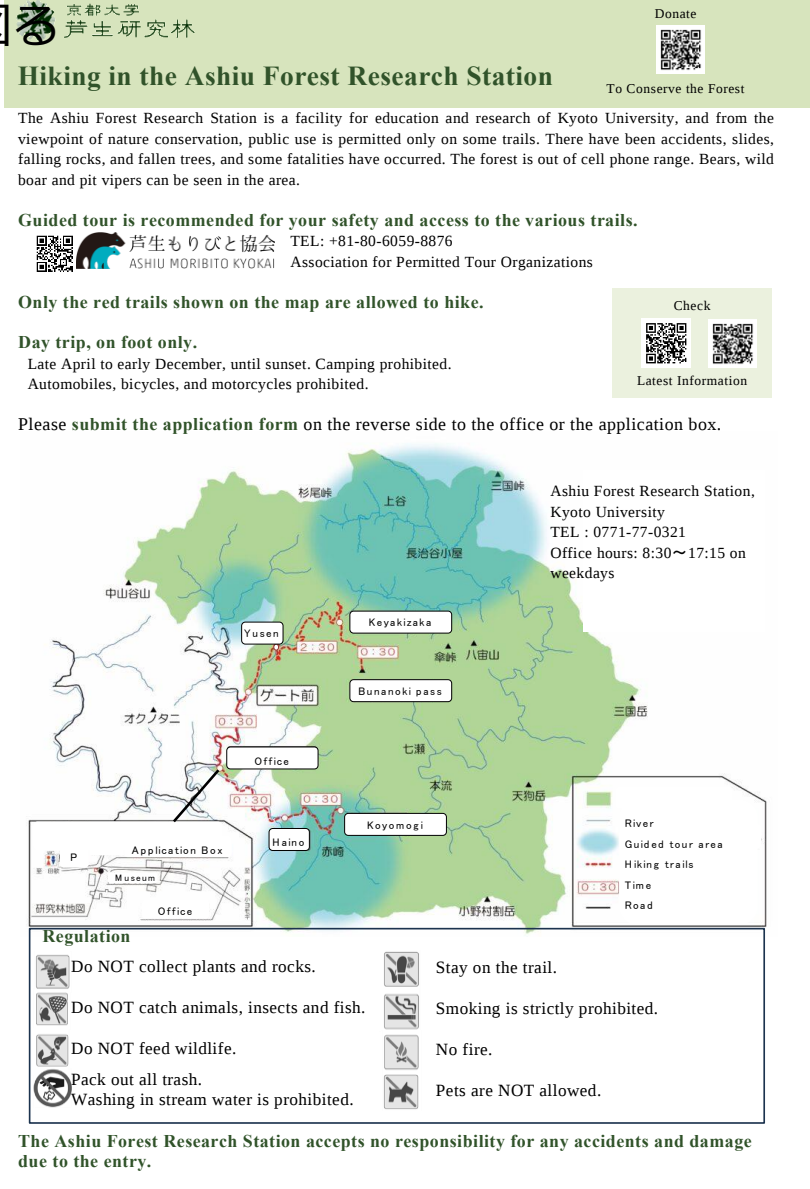
観光客、学生などの関係人口になり
うる人たちへ、どのような魅力を提案するかを議論

ウェブサイトやSNSに掲載する
文章を作成

↓

森の入林案内
パンフレット

インバウンドにも対応するため、日本語版と英語版を作成。ルートを制限して保全と利用のバランスを図る



地域のデータベース構築と
人と人がつながる場の創出

自然科学と人文社会学の文献749件を検索可能

DATABASE

京都丹波高原国定公園における
研究・調査情報データベース

種別
すべて

タイトル

著者

発行年
1941年 ~ 2025年

美山×研究つなげる集会
記録集

美山×研究つなげる集会
記録集 その2

第3回
美山×研究つなげる集会
記録集

第4回
美山×研究つなげる集会
記録集



今後、ビジターセンター美山観光
まちづくり協会などの掲載を予定

景観を見るだけでなく勿体無い！～「舞台裏」を通して見る美山の真の魅力～

美山町の代表的な観光スポットである「北」集落のこと、「かやぶきの里」、かやぶき屋根が印象的な家々と、その周囲の田畑・山々が絶妙に調和した日本の原風景が、多くの人々を魅了し、観られています。しかし、その美しい景観の陰には集落に暮らす人々の働き回らない努力や苦労があるのです。そのような「美山の舞台裏」を、この記事を読む皆さんに少しでもお伝えできたら幸いです。

まず、かやぶきの里最大の特徴ともいえるかやぶき屋根ですが、その維持も住民の努力あつてのものなのです。屋根の葺き替えには1面あたり約400万円掛かり、1つの屋根は4面あるため、補助金があるとはいえ住民の負担は大きなものになります。また、周辺の田畑も、かやぶき屋根と美しく調和し風景を構成する大切な存在ですが、これも住民の営みにより支えられています。現在、農業だけで生活していくことは難しく、兼業農家などになりながらも田畑を維持しているのです。更に、このような美しい景観の集落に大勢の観光客を迎え入れ、楽しんでもらう取り組みそのものも、住民の決断の結果と言えます。とはいえ、このように地元の人々が努力や苦労を積み重ねて守ってきた美山の魅力は、滞在時間の短い観光ではなかなか伝わらない。なぜなら、それらは地元の方とのコミュニケーションや、体験を通してしか得られないものが多いからです。「美山ナビ」で紹介されているように、美山では様々な体験プログラムを用意しています。次に美山を訪れる際は、是非とも地元の方とのコミュニケーションや、体験に挑戦してみてください。

そして、目に見える景色をただ楽しむだけでなく、その裏に流れる文化や思想、集落を支える人々の努力などに思いを馳せてみてください。きっと、美山の「真の魅力」に気づかれ、豊かな時間を堪能できることでしょう。



同じかやぶきの里であっても、視点を変えれば新たな魅力が見えてくる

伝統文化の保全に対する地域住民の姿勢

日本各地で様々な文化が生まれ、育ち、継承されてきました。しかしながら、文化のもつ伝統性は、その文化の魅力を幅広い層に伝えようとする過程で、多かれ少なかれ変貌してしまっています。現に京都の市街地では、観光客向けに、伝統的な食、芸能等を残しつつも、あまり目につかない部分は、元とは別物と言っているほどに変えられていることが少なくありません。そして、一般住民がその文化の担い手となることはまずありません。文化を保有する人々の精神性と、言ったものが、ないがしろにされているように感じます。

美山という場所は、こうした伝統文化の変化の度合いが、比較的小さいのではないかと思います。もちろん、暮らしやすくなるために様々な技術を導入してはいるようですが（囲炉裏を囲んで……という家はもうほとんどないと言いました）、かやぶきの建築様式を残す集落や、栃をへすと作業を手で行う集落があります。それだけではありません。景観の保全のための除草などの活動や、地域のお祭りには、そこに住む人たちが大いに関わっています。このような、地域住民が主体となって自分たちの持つ伝統の保持に取り組む、というのは、日本、あるいは世界で見て非常に珍しいことであるだけでなく、地域の人々が「この伝統を守るんだ」という意識を持っている点で、この上なく尊いことであると思います。

実習にて、私たち学生は栃へしを体験しましたが、指導をしてくださったご老人が「いすれ栃へしの文化は消えてしまふのかもしれないけれど、それでもあがかないといけない」とおっしゃったのが、とても印象に残っています。「あがく」という言葉の必死さが、胸に突き刺さりました。どうにか伝統を維持しようとする人がいて、そうして人々の努力によって、辛うじて伝統が保たれている。そこで生きる人々の精神と伝統文化とのあいだに強固なつながりがある、ということこそが、都会にはない美山の魅力なのではないでしょうか。

謝辞：本プロジェクトは学生とともにのぼす京都プロジェクトの助成をうけて実施しました。また多くの地域関係者の皆様にご協力いただきました。